

地方独立行政法人 徳島県鳴門病院の 現状と第3期中期計画の取組状況について



【R4.5.30 鳴門病院を良くする会資料】

病院概要

- ▶ 許可病床数 307床（一般病床、うち6床人間ドック）
- ▶ 診療科 内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科
皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科
放射線科、麻酔科、形成外科、救急・総合診療科
(以上15診療科)
- ▶ センター ○手の外科センター ○脊椎脊髄センター
○糖尿病・内分泌センター ○患者サポートセンター
- ▶ 併設施設 健康管理センター
附属看護専門学校

徳島県鳴門病院の現状

- ・（救急医療）2次救急医療機関

- ・（周産期）分娩取扱医療機関

（地域包括ケア）地域医療支援病院
在宅療養後方支援病院
患者サポートセンター



附属看護専門学校

- ・臨床研修指定病院

- ・医学教育センター

- ・日本内科学会教育病院
 - ・日本循環器学会循環器専門医研修施設
 - ・日本外科学会専門医制度修練施設
- など計26施設

医療

- ・（特徴のある医療）手の外科センター
脊椎脊髄センター
糖尿病・内分泌センター

- ・（がん医療）地域がん診療連携推進病院

- ・（災害医療）災害拠点病院

理念

私たちは皆さまに信頼
される病院づくりを目指し
安全な医療を親切に
提供することに努めます。

人材
育成

健康
づくり



健康管理センター

- ・PET-CT検診
- ・糖尿病予防検診

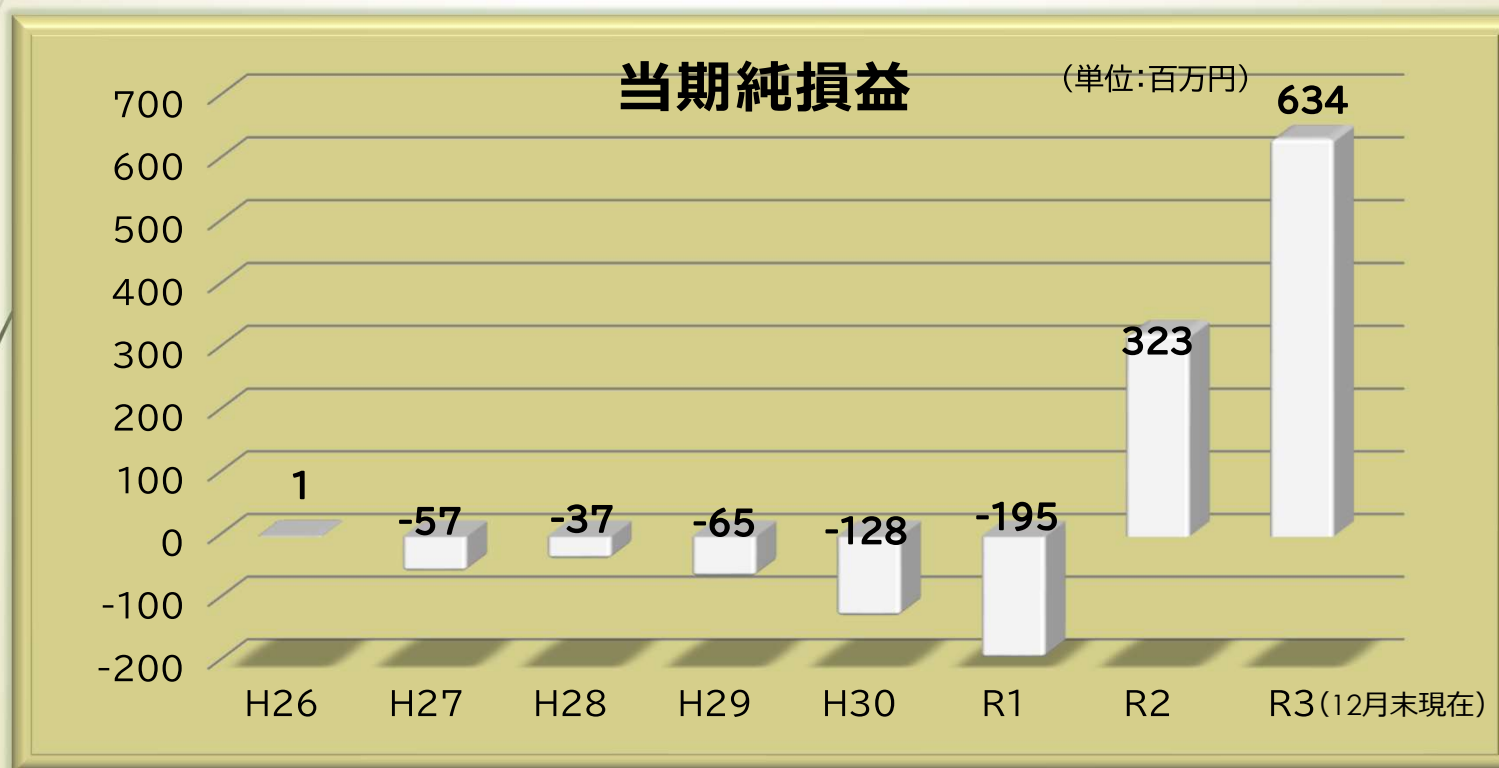
- ・定期健康診断
- ・生活習慣病予防検診

- ・メディカルツーリズム

- ・基本人間ドック
- ・はつらつ人間ドック **新**
- ・いきいき人間ドック **新**

経営の状況

- ▶ 新型コロナウイルス感染症への対応、断らない救急医療の推進や無痛分娩の実施などに積極的に取り組んできた。
- ▶ また、新たに政策医療に係る運営費負担金も交付される等、令和3年度末に累積欠損が解消される見込みとなった。



患者数の状況その1

入院患者数

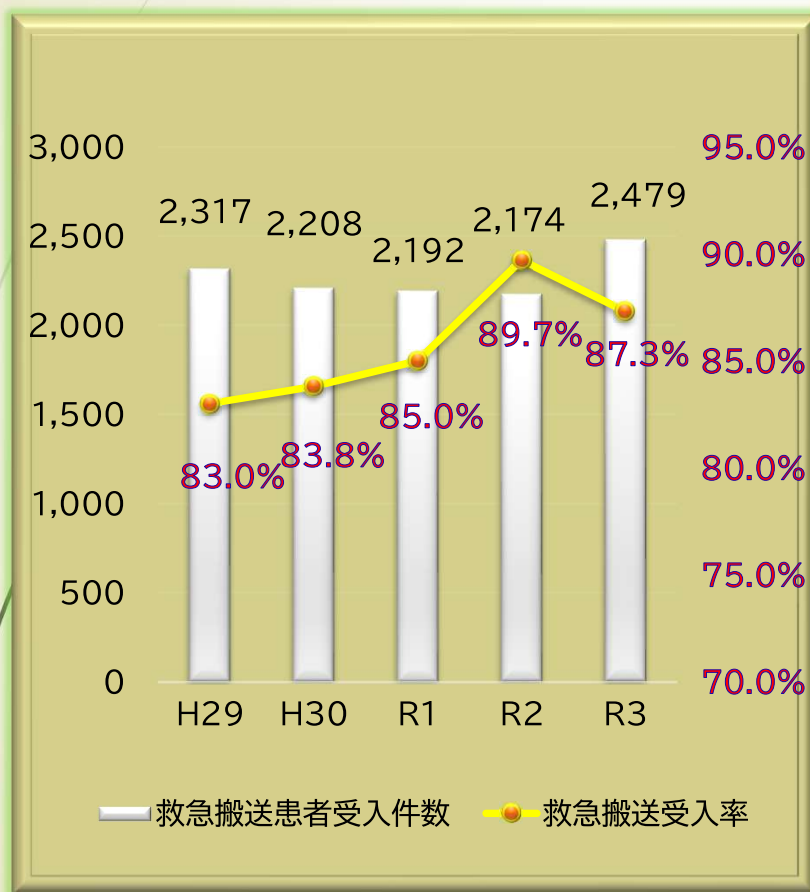


外来患者数

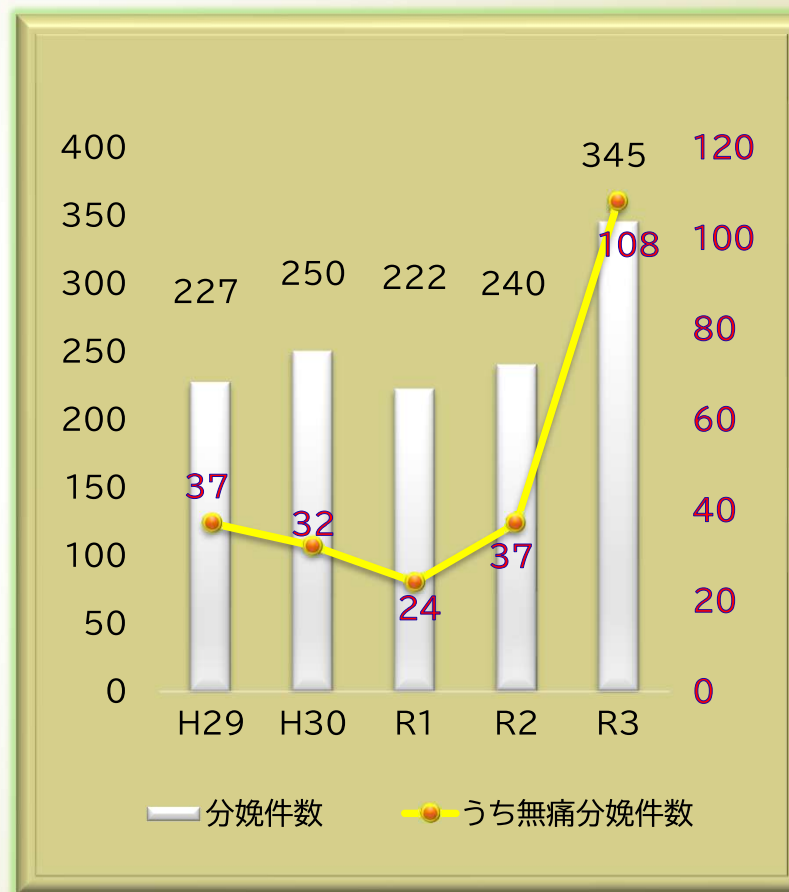


患者数の状況その2

救急患者

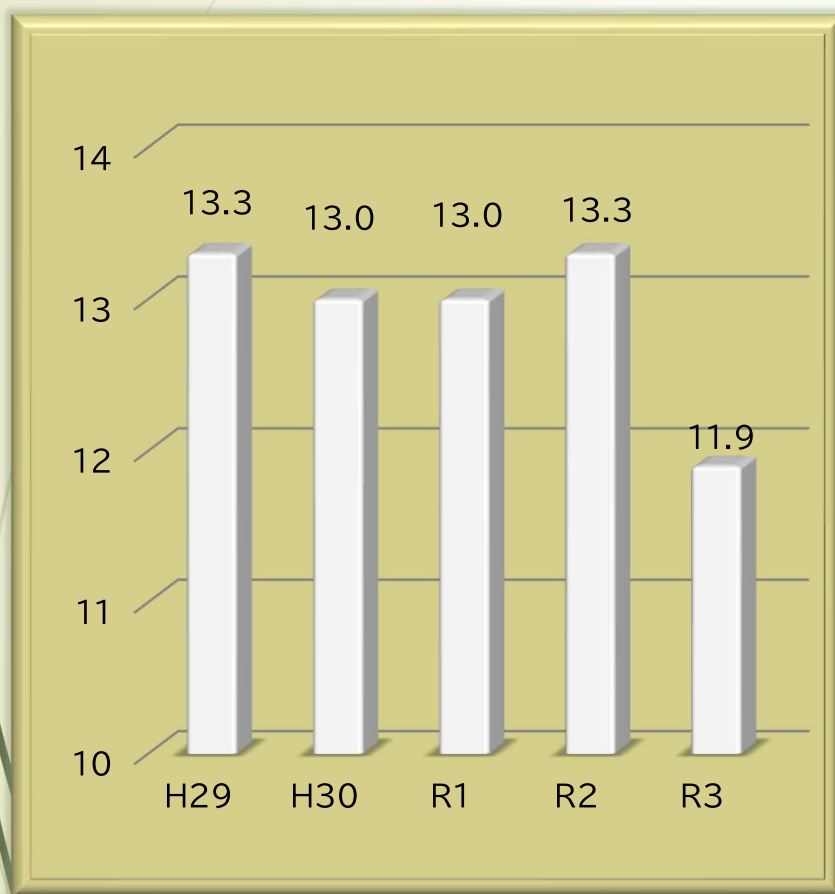


分娩件数



臨床指標

平均在院日数



紹介率・逆紹介率



第3期中期計画の概要

「鳴門病院を良くする会」
等からご意見を賜りつつ
取組を推進



令和3年度

- ・総合医療情報システムの整備
- ・病室の個室化(～R6))
- ・がん医療の高度化(MRI、DSAの更新)
- ・人材の確保・養成(～R6) など

令和4年度(予定)

- ・患者サポートセンターの強化(MSW)
- ・地域包括ケア病棟の整備
- ・外来化学療法室の拡充
- ・抜本的な災害対策(～R5)
※防潮壁、ヘリポートの整備

令和5年度(予定)

- ・整形外科外来の整備・移転
- ・健管センター検診車の更新
- ・緩和ケア病床の整備(～R6)
- ・臨床研修看護師制度の創設 など

令和6年度(予定)

- ・救急総合診療センターの整備
- ・外壁補修工事
- ・照明設備のLED化
- ・人間ドック病室の改修 など

地域完結型の
中核病院へと進化
「職員に笑顔、患者に満足」

第3期中期計画(R3)の取組状況

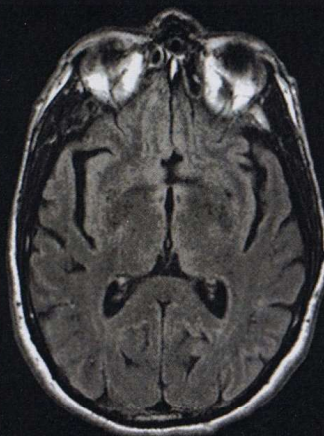
➡ MRI (AI搭載)

動きの影響を抑制 – 新しい体動補正

IMC(Iterative Motion Correction)



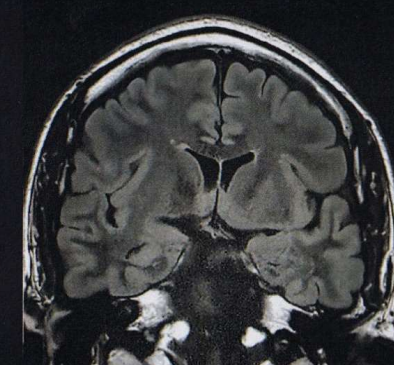
IMC Off



IMC On



IMC Off

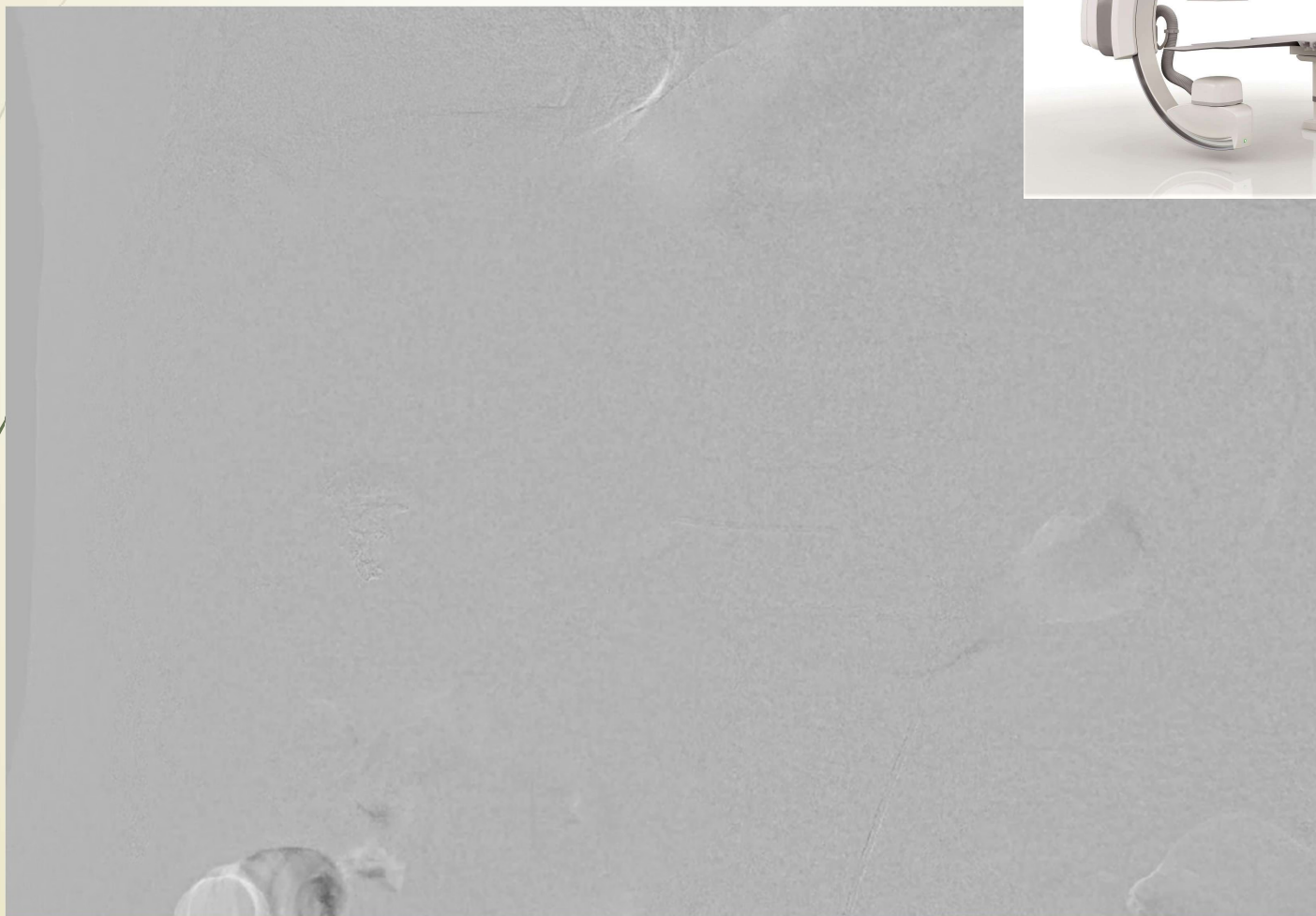


IMC On



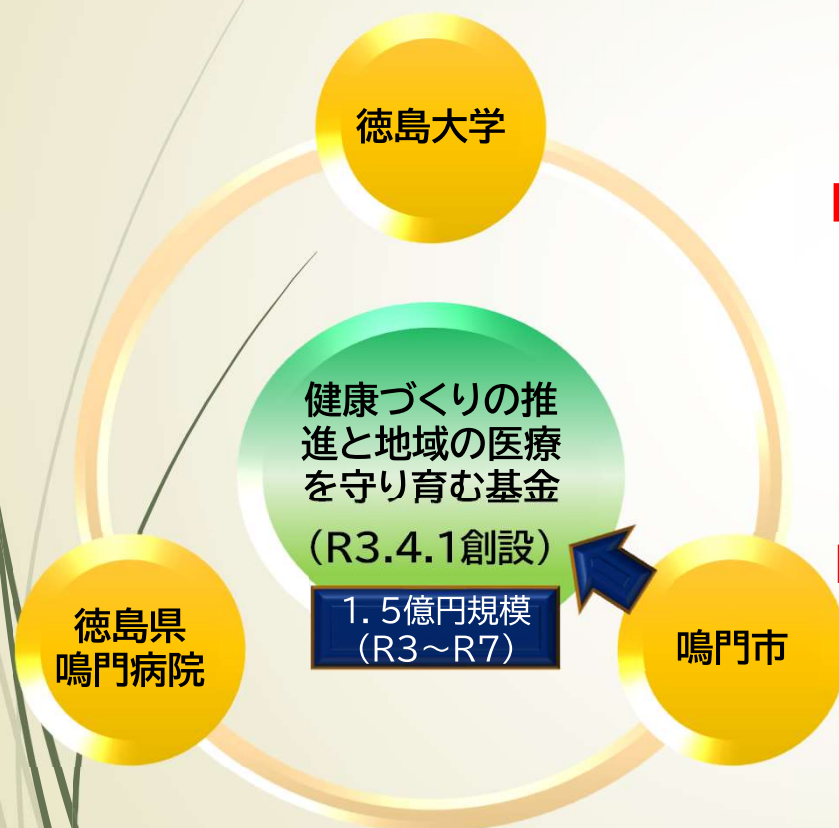
第3期中期計画(R3)の取組状況

➡ 最新の血管撮影装置の導入



第3期中期計画(R3)の取組状況

医療人材の確保・育成



■ 医師の確保

- ・徳島大学から循環器内科Dr.を1名派遣
R4.1～ 週1回診療
- ・「救急・総合診療科」の新設

■ 効果的なPRの実施・処遇改善等

- ・四国大学メディア情報学科と共同したPR動画の制作
- ・写真展の開催や広報素材の作成
「大杉隼平」氏とのコラボ(R4)
- ・初任給と昇給停止年齢の改善



■ 質の高い人材の育成

- ・資格取得、研修受講の助成制度創設
- ・魅力ある看護教育環境の整備
- ・優秀な看護人材の輩出
(10年連続・国家試験合格率100%)



第3期中期計画の取組状況(感染症対策)

- 新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、「予防促進」から「入院治療」まで、積極的に対応している。

予防促進



- ・医療従事者から高齢者まで、地域の方々へのワクチン接種を実施。
- ・アナフィラキシー等の副反応にも即座に対応。

基本型接種施設

専門協力病院

検査・診察



- ・疑いのある発熱患者の検査や診察等を実施。

有熱者外来

帰国者・接触者外来

入院治療



- ・フェーズに応じた柔軟な受入病床の確保

重点医療機関

協力医療機関

第3期中期計画の取組状況(経営体質の強化)

収益の確保

患者ニーズに応じた「個室の充実」 (整形外科病棟・4床増)

- ・休止病棟期間を利用し、当初計画より前倒しで改修工事を実施
- ・全体の病床数を変えない、工夫を凝らした整備(R3. 8～運用開始)



適切な「病床利用率の確保」

- ・院長補佐をトップとしたベッドコントロールセンターを設置(R3. 4)
- ・病床管理業務支援システムを導入(R4. 3)し、全空床状況、最適な転棟・退院時期を的確に把握



患者目線の「検診メニューの再構築」

- ・多様なニーズに応じた、人間ドック等のメニュー及び料金設定の抜本的な見直しを実施
- ・各団体へのセールスを強化

費用の削減

「就業管理システムの導入」による業務改善 (R4. 7～)

- ・休暇等の申請・承認のオンライン化、帳票作成及び集計業務の簡素化を推進
- ・給与システム等と連携し、業務の効率化



マイナンバーカードによる 「オンライン資格確認」(R3. 10～)

- ・健康保険証入力手続きの簡素化や診療報酬請求の適正化を推進し、職員負担を軽減

医薬品の「共同調達の推進」

- ・県立病院と連携し、スケールメリットを活用した、価格交渉による経費の削減
(還付金・R2:11,915千円、R3:3,627千円)

今後の展望：第3期中期計画(～R6)の推進PT

- 多職種により構成された「プロジェクトチーム」において目標実現の具現化に取り組んでいる。

総合医療情報システム

運用開始

- ・新・電子カルテシステムと各部門システムの連携強化
- ・健診システムとのIDの統一化
- ・マイナンバーを活用したオンライン資格確認の推進



医療安全・機能の向上

地域包括ケアシステム 創生PT

R4～

- ・有床診療所の減少に対応した患者の受入促進
- ・新型コロナウイルス感染症収束後に専用病棟を活用
- ・感染症対応が可能なリバーシブルな施設整備



地域包括ケアシステムの深化

外来化学療法移転・ 緩和ケア病棟設置PT

- ・外来化学療法室を拡充し、患者ニーズに対応(R4～)
- ・休床病棟を活用し、県北部の緩和ケア病棟ゼロを打破



フルセットのがん医療の提供

災害対策施設整備・ 施設リニューアルPT

- ・津波防潮壁による抜本的な浸水対策
- ・ヘリポートの設置によるシームレスな医療の推進
- ・地域が一体となった防災力の向上



災害拠点機能の発揮

救急・総合診療センター 整備PT

- ・東部Ⅱ救急医療圏の自己完結率の向上
- ・多数傷病者の迅速な受入
- ・未知の感染症への対応



断らない救急医療

令和4年度・年度計画の概要その1

1 診療事業の進化

- ・外来化学療法室の拡充
⇒需要に対応(5床→12床)
- ・新・総合医療情報システムの本格稼働(R4. 6)
⇒健診システムとのID統一
- ・救急総合診療センター、緩和ケア病棟の整備に向けた検討を引き続き実施



外来化学療法室

3 災害時における医療救護

- ・抜本的な災害対策の実施(～R5)
⇒防潮壁の整備による津波浸水対策
⇒ヘリポートの整備に着手
- ・地域と一体となった災害訓練の実施
⇒「鳴門病院まつり」への組み込み
- ・DMATの体制強化、災害備蓄品の充実
⇒災害拠点病院機能を強化



津波防潮壁

医療品質及び
患者サービスの
向上

2 医療・介護連携の充実

- ・地域包括ケア病棟の整備
⇒整形外科など、急性期治療後の在宅復帰支援の充実
⇒新型コロナウイルス収束後に、整備に着手
- ・地域医療機関登録制度の推進
⇒紹介率・逆紹介率の向上
- ・新たな検診メニューの運用
⇒ニーズに応じた検診の推進



連携医療機関証

4 人材の確保・養成

- ・鳴門市、徳島大学と連携した医師確保
⇒循環器内科医、総合診療医の確保を推進
- ・徳島医療コンソーシアムの深化
⇒5Gを活用した遠隔医療の推進
- ・若手人材の確保・養成
⇒初期臨床研修医のフルマッチへ
⇒臨床研修看護師制度の創設を検討



初期臨床研修

令和4年度・年度計画の概要その2

1 効果的な業務運営の推進

- ・新・総合医療情報システムの本格稼働(再掲)
⇒手術支援システムなど各システム間の連携強化による職員負担の軽減
- ・人事評価制度の深化
⇒全職員への適用へ向けた取組を実施 手術支援システム
- ・就業管理システムの運用
⇒業務効率化による超過勤務の縮減



業務運営の改善
及び効率化

3 収入の確保及び費用の抑制

- ・物流管理システムの構築
⇒適正な在庫や消費の管理による経費削減
⇒発注などの管理業務等の負担を軽減
- ・診療材料の共同調達の検討
⇒日本ホスピタルアライアンスの活用
- ・さらなる個室の確保
⇒整形外科病棟のノウハウを他病棟へ展開



物流管理システム

2 職員の就労環境の向上

- ・働き方改革の推進
⇒フレキシブルな勤務体制の検討
- ・タスクシフティングの推進
⇒メディカルクラーク、看護助手等の有効活用
- ・継続的な処遇の改善
⇒依然として存在する県立病院との初任給格差等の解消に向け、引き続き改善を実施



看護助手

4 計画的な施設・設備整備

※長期借入金制度を
有効に活用

- ・外来化学療法室の拡充(再掲)
⇒休床病棟のスペースを有効活用
- ・地域包括ケア病棟の整備(再掲)
⇒新型コロナ専用病棟を活用
⇒感染症対応が可能なリバーシブルな整備
- ・屋上防水改修工事の実施
⇒防水工事に併せ安全性の向上と緑化改修

徳島県鳴門病院から皆様へ

- 来年度、法人設立10周年（創立70周年）を迎える当院は、地域の方々から「さらに信頼され、期待され、愛される病院」となるよう、引き続き、職員が一丸となって取り組んで参ります。



さらなる進化のための応援をどうぞよろしくお願いいたします。